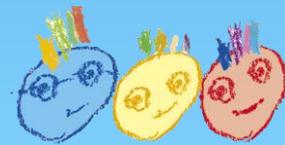


2023.6.24

松阪市子ども会連合会 子ども会代表者懇談会

子ども会KYTについて



松阪市子ども会連合会

目次

■ 子ども会とは

- ・ 子ども会の定義
- ・ 子ども会の特徴
- ・ 子ども会のメリット
- ・ 子ども会の組織

■ KYT（危険予知トレーニング）

- ・ KYTを行う理由
- ・ 安全共済会について
- ・ 子ども会活動と事故
- ・ 安全な活動のために
- ・ KYTの進め方

子ども会とは

子ども会の定義

「子ども会」とは、子どもを構成員とする集団であり、そこに指導者と育成者が加わり成立することを確認。

(全国子ども会連合会ホームページより)

→ 「子ども会」は、構成員となる子どもたち、
そして指導者や育成者といった大人がいて成り立ちます。

子ども会とは

子ども会の特徴

- ①異年齢の集団
- ②遊びを中心とした活動
- ③子どもの成長

子ども会には具体的に「どのような活動をしなさい」といった定めはありません。

しかし子ども会共通の特徴として、この3つが挙げられます。

子ども会とは

①異年齢の集団

- ・異なる年齢で一緒に活動する
→社会性を身につけるきっかけ

子ども会は、異年齢の集団です。

異なる学年の子どもと一緒に活動することで、年下への思いやりや、年上への尊敬の気持ちを育てます。

能力や経験に差が出る異年齢の中で活動することは、子どもの価値観や視野を広げ、社会性を身につけるきっかけとなります。

子ども会とは

②遊びを中心とした活動

- ・「楽しい遊び」をベースにした活動
- ・指導者・育成者は時間・場所・仲間を確保する

子ども会は、遊びを中心とした活動を行います。

レクリエーションをしたり、工作をしたり、お祭に参加したりと「楽しい遊び」をベースにした活動をします。

そのために指導者・育成者といった大人は、遊ぶ時間、遊ぶ場所、遊ぶ仲間（場合によっては遊ぶ道具、遊ぶ自由）を確保します。

子ども会とは

③子どもの成長

- ・子どもは活動を通して成長する。
- ・学校や家庭ではできない体験をする。

子ども会は、子どもが成長する場所です。

活動を通して、人とのかかわり方やコミュニケーション方法を学んだり、未知のことに挑戦したり自主的に取り組んだりする力をはぐくみます。

学校や家庭だけではできない体験をすることで、子どもたちの成長を促すことにつながります。

「子ども会のしおり」04

めざそう子どもの手による子ども会

子どもの成長に「遊び」は欠かせない
遊びで子ども会を活性化しよう

●子ども会は仲間との遊びを通じて
体験し、学び、成長する場です。

●遊びは人間関係能力
感受性・創造性
体力・俊敏性を育て
ます。



●子どもたちに
自信と意欲を持たせ
我慢強さを育て
心と体の健康を育てます。

愛知県子ども会連絡協議会 専門指導者会編集

子どもたちは遊びで育つ

「作ってあげようたこあげ大会」

たこに絵をかき糸やしっぽなどを工夫してとぼす（東海市名和町…「たこあげはとても楽しかったです。」「風のおかげでたくさん走らなくてもたこがあがったのにはびっくりしました。」「たこのそり方を変えたらよくとぶようになって、おもしろかったです。」「少しの工夫でとびかたがかわることがわかりました。」

どんな子ども会活動にしたいですか？

「みんなでなかよく楽しい子ども会にしたいです。」「またいろいろなことにチャレンジしたいです。」

「夢活動」愛知県子ども会連絡協議会感想文より

(写真は他の子ども会です)



遊びで子ども会を活性化しよう！

子どもたちの笑顔はこんな時に生まれます

子どもたちがワクワクできるとき

時を忘れて夢中になれるとき

達成感が得られるとき

こんな遊びにワクワクします

思いっきりチャレンジできる遊び

与えられた物でなく自分たちで作った物での遊び

時を忘れて体を動かした遊び

遊びは子ども会の大切な日常活動の一つです

子ども会は異年齢の仲間と遊びを通じて成長をする事を会の目的の一つにしています。

子どもたちが群れ遊ぶことを見守り支援する事は最も基本的な日常活動のひとつです。

昔遊びは幅広い年齢の子と一緒にできます。

昔遊びは、ルールが幅広い年齢層が参加できるようにできています。



昔遊びの例

・かんけり、馬と

び、花いちもんめ、

ビー玉、おはじき、

ゴム跳び、お手玉、

ケンケンパ、かごめかごめ、こままわし (写真はおじゃみ)

異年齢集団での遊びや創作活動の例

身体的能力を高める活動…… スポーツ、体を使った遊び

自然体験 …… キャンプ、山登り

遊び文化の伝承 …… お手玉、ゴム跳びなど

創作活動・作る喜びを感じる活動

…… ペットボトル工作、折り紙

年中行事 …… たこあげ、ひな祭り

ニュースポーツで3世代交流を

最近「ニュースポーツ」と呼ばれるものが数多くあります。それらの中には、低学年の児童からシルバー世代まで楽しめるものもいくつかあります。

ルールもそれぞれの世代に合わせて変更するなどの工夫で、楽しんで交流ができます。

体育館で行うものも多く、天候に左右されないことも魅力です。

ニュースポーツの道具は教育委員会の社会体育関係の部署に申し込めば貸してくれます。そのときに指導員の派遣をあらかじめ依頼すれば、派遣してくれます。

子どもたちのレクリエーション活動、三世代の交流が目的なので勝負にこだわりすぎないように注意しましょう。

3世代交流に適したニュースポーツの例

スポーツ輪投げ、グランドゴルフ、カローリング、ペタンク、イゴボール、キャッチングザスティック、などの他多くのスポーツがあります。

遊びには3つの間が必要です

子ども会は3つの間の確保を
遊びには次の3つの間が必要です

「仲間」「空間」「時間」

それらの間+「道具」「遊ぶ自由」
が必要です。

地域の人たちに、遊びの大切さを理解してもらい「3つの間」の確保に協力を呼びかけましょう。

遊びのリーダーを 育てよう

昔遊び、創作活動、自然遊び、屋外で思いっきり体を使う遊びを子どもたちに紹介し、教えるリーダーがいれば楽しい活動が展開できます。



遊びは五感を鍛え生きた認識を育てます

子どもたちは

現実世界での成功・失敗を通じて成長する

現代の子どもたちは、ネットワークの世界やコンピューター遊びなどを通じての仮想空間と、身の回りの現実である現実空間の両方に生きています。

子どもたちが、生きていくための価値観や道徳観を身につけ、物事に対する正しい認識能力を育てるためには、様々な直接体験を通しての成功体験、失敗体験が欠かせません。子どもたちにとって、遊びは大切な現実体験です。

遊びは人間関係能力を高めます

子どもは遊びを通じて

- ・人と人とを結びつける力
- ・ほかの人に働きかける力
- ・協調性・ルールを守る態度
- ・思いやりの心・支え合う心を身につけます。

遊びは地域の力を高めます

遊びを通じて三世代の参加を

遊びは誰でも参加できます。

遊びは。子どもたちも大人も気楽に参加できます。しかも楽しんで参加できます。

昔遊びをシルバー世代から教わったり、竹とんぼ、竹馬作り、たこ作り、たこ揚げなどを幅広い世代とともに楽しむことによって、子ども会も、地域も活性化します。

こうした活動は、誰でも参加でき、子ども会活動への参加を呼びかけやすい活動です。

多くの方に「遊び」への参加を呼びかけましょう。



第3部 子どもの成長と子ども会活動について

1. 子どもの発達

1) 子どもの育つ環境

子どもたちは、「人的・社会的環境」「文化的環境」「自然環境」に囲まれて育ちます。

子どもたちの成長は、これらの環境との相互作用のなかで培われます。

それらの環境から受けた影響や、それらの環境に対して子どもが能動的に働きかけそこから受けた反応、結果が、子どもの個性や人格の形成につながります。

大人達は、子どもたちに対して、こうした環境を良好に保ち、積極的に実体験として接する機会を提供する必要があります。

子ども会の活動は、これら全ての環境に対して子どもたちとともに積極的に関わる活動です。ですから、子ども会の活動内容は幅広く、育成者は、広い視野で行う必要があります。逆に言うと、子ども会の活動を、特定分野に限る必要はありません。

2) 子どもの脳の成長にとって必要な実体験

子どもは成長の過程で様々な体験をします。子ども体験の質と量が子どもの個性を作ると言われています

子どもの脳は、五感（見る、聞く、触る、味わう、嗅ぐ）と3つの身体感覚（体制感覚、皮膚感覚、生理感覚）、筋肉の活動を通して発達し、現実空間と仮想空間との区別をつけます。

さらには情緒やモラルなど、生きていく上で必要な能力を身につけていきます。

子どもたちの成長にとって、子ども会がめざす「異なる年齢の仲間集団での遊びや、自主的活動を通じて社会性知的能力、情操、体力創造性など……を獲得する」ことはどうしても必要なことといえます。

子ども会もまた、そうしたことを目指していることを自覚して活動を展開する事が重要です。それが多くの人の支持を受け多くの参加者を得ることにつながります。

3) 現在の子どもの置かれた状況と一般的傾向

よく「少子高齢化社会」といわれますが、現実には子どもたちは、数人以上の異年齢集団で遊んだり、遊びを通じて上を見習い下を思いやるような体験が少なくなっています。さらに、勤労・自然・遊び体験の不足なども言われています。

その一方で豊富な知識、情報を持つ事も特徴です。ネット社会の中で親の世代とは違った交友関係と価値観を持つ事も指摘されています。

こうした中で、社会性の欠如、人間関係能力の低下、自立心の欠如、個人生活志向、心身のひ弱さなどが言われています。

また、偏った食事内容、孤食などによる生活行動への悪い影響なども心配されています。

そうした中で、地域、異年齢集団、自主的活動をキーワードとして、直接体験を繰り返す子ども会の活動は、ますます必要とされるようになっていきます。



4) 子どもの成長にとって必要な生活体験

子どもの成長にとって必要な生活体験として

1. 健全な生活習慣と、家族との交流

お手伝いができている子ほど良い生活習慣・正義感・道徳観が身についている。

2. 健全な食生活と食文化

食生活が乱れるとイライラ・根気のなさが強くなる。

3. 異年齢集団・社会との交流

4. 遊びや自然体験

等が挙げられます。

子ども会は、家庭学校と連携協力して、こうしたことを推し進める活動を繰り返すことができれば、子どもたちの成長への手助けができ、子ども会の存在意義を知って貰えることになります。

2. 子どもの成長に係わる子ども会活動について

子ども会の活動は、子どもの発達に大きな力を発揮しています。

1) 異年齢集団での生活・交流

子どもの成長には仲間との生きた人間関係が必要です。

異年齢集団での体験を通して、子どもはスムーズに大人に移行できます。

少子化による影響や、学校ではほとんどの時間を同年齢で交流していることによって、異年齢での交流は少なくなっています。

子ども会で異年齢での行動を経験することは、それ自体が大変貴重で、子どもの成長に欠かせません。

2. 地域社会との交流

子どもたちがスムーズに社会人として成長するためには、地域社会、地域のコミュニティーとの交流が必要です。

子ども会は常に地域社会との連携と協力で活動しており、その中で様々な人間関係を体験することによって人間関係能力を高め、社会について知り、社会の一員として成長する場となります。

社会とのふれあいの中で多様な価値観が存在することを体験し、社会や人間関係についての柔軟な見方が養われます。

3. 実体験・生きた体験

子どもの成長には、実体験を通じて五感を鍛えることが必要です。バーチャル世界では成長できません。

子ども会は、家庭生活や学校生活だけでは普段体験できない体験ををする場所です

4. 成功体験・失敗体験

子ども会は自主的活動を通して、生きた失敗体験とそれを乗り越える体験を大切にしています。

3. 子どもの成長（資料）

1) 子どもの成長と発達課題（資料）

(1) 発達課題

一般に児童期における発達課題の例として、次のものが挙げられる。

- ・普通の遊びに必要な身体的技能の習得
- ・自分の身体に対する健全な態度の形成
- ・友人との適切な仲間関係の成立
- ・読み・書き・計算の基礎的な技能の発達
- ・良心・道徳性・価値判断の尺度の発達
- ・人格の独立性の発達
- ・各種の社会的態度の発達
- ・その他

(ハヴィグーストの発達課題1958年より)

(2) 子どもの発達段階

- a. 幼児期 … 「信頼感」を身につける時期
周囲の人間が自分を裏切らない事を学ぶ
両親が子どもの欲求を問題なしにかなえる事によって養われる。
スキンシップの時期
- b. 幼年期 … 「自立心」を育てる時期
友達との人間関係が加わる 「公園デビュー」
- c. 小学校低学年 … 「活動性」を身につける
様々な事に興味関心を示す時期。好奇心が増し何でもやろうとする時期
後々の「やる気」を育てる時期
- d. 小学校高学年 … 「自主性」「社会性」を身につける
自主的な計画的活動性で子どもを育てる
興味関心に基づき活動
- e. 中学生 … 「自発性」を身につける
しっかりした目標を自ら決めて、自分で計画を考えて実行する
自己決定と自己責任を身につける
- f. 高校生 … 「主体性」を身につける
自己実現に向かって強い意志を育てる時期

g. 青年期 … 「自己の確立」をする時期

「自己同一性」の獲得「己とは何なのか」をつかむ

(3) 発達に応じた子ども会への関わり合い方

| 学年(年齢) | 魅力・興味と子どもの主体性 | 備考 | 全体 |
|---------------------------|-----------------------|---|-----------|
| 就学前2年 小1(6歳) 小2(7歳) | 参加・興味、好奇心 (親子同伴参加) | 親子一緒に単純な遊び | 子ども会全体の活動 |
| | 大人の分担する分野 | 企画・立案・実施への参加 毎年同じ企画活動でも 任された部分が多くなれば 興味は持続する | |
| 小6(12歳) 中1(13歳) | リーダー会員として活動 | 主体的な関わりを求める | |
| 高1(16歳) | リーダーとして参加 | 塾、受験、部活動、 仲間、興味と関連 | |
| 高3(18歳) | 自分たちだけの活動欲求 社会参加 | 任されるとがんばる ようになる。 | |

4. 異年齢集団の効果について

1) 子どもの仲間集団

子どもは遊びたいから集まります。そして仲間集団での活動を通じて、他人との協力、競争、妥協といった対人関係能力を発達させます。

集団に加わることによって、考え方の世界、自分の価値観を家庭の中から一步広げる事ができます。

子どもは強く仲間を求めます。仲間から認められる事で自らの存在を確認し、喜びや達成感を得る事ができます。子ども会では団体の一員として認められ、受け入れられることによって、心の安定と積極性を身につけていきます。

ところが、今の子どもたちはインターネットを通じて大勢の仲間と交流している一方で、直接的な触れ合いの時間が少なく、対人関係を築くのが下手になっています。

さらに、気に入った仲間同士の、同年齢集団の小集団による生活が主になっています。また、いつも同じ仲間と遊んだり活動するのではなく、活動の内容ごとに気の合う仲間を変えてゆきます。

したがって、10人以上の異年齢集団の様な活動に慣れていません。異年齢集団の経験が少ないので、下級生や上級生への対応の仕方がわからない場面も出てきます。

育成者は注意深く見守り、上級生が支配的な立場になって下級生を意のままに従わせようとしたら、下級生が勝手気ままな行動をとらないように気を配り指導する必要があります。

2) 異年齢集団が果たす役割

異年齢集団での活動を通して年下への思いやりや年上への尊敬の気持ちが育ちます。年上のする事から多くを学び社会性を身につけていきます。集団内には暖かい空気が満ちています。

異年齢の集団では成員の能力や経験の差を生かすことができます。

また、年齢に応じた役割分担を持ち活動し、社会の一員として認められる事によって、生きる喜びや自信を育てる事ができます。

そして、異年齢の集団の中での体験を通じて遊びの技術、多様な価値観、生活技術を身につけて成長する事ができます。しなやかな社会性を身につけることができます。

団員の一部として認められ、受け入れられることによって心の安定と積極性を身につける事ができます。

異年齢集団の効果は、日常的にその集団が活動しないと発揮できません。子ども会は定期的に、身近な地域で集まって活動する団体ですから、子どもの成長に大きな影響を持つ活動といえます。

3) 異年齢集団・同年齢集団の特徴(資料)

(1) 同年齢集団の特徴

- a. 親しみやすい
共通の話題、興味、関心、互いに同等な立場、同程度の能力
- b. 思いやりが薄れる
同等な能力、興味や関心……互いは競争仲間
自己の尺度で仲間を評価

(2) 異年齢集団の特徴

- a. 対等の立場で競争する意識は薄い。
年下に対する思いやり、年上に対する尊敬の気持ちが醸成される。
誰がリーダーになるかははっきりしている。
- b. 能力や経験など相互の違いが尊重される。
能力や経験の差がもともと大である
互いの差異を尊重しながら集団を維持しようとする活動が展開される。

(3) 異年齢集団の特質

成員の能力や経験の差を生かすことができる。
集団内に支持的な温かい雰囲気が生じやすい。

負の側面

平素のコミュニケーション不足が生じやすい。
身勝手な振る舞い(上級生)、遠慮・甘え(下級生)が支配する可能性がある。

(4) 異年齢集団の活動

個々の成員がもつ特質を、尊重する・重視する活動
違った特質が十分発揮される活動が求められる
集団全体の達成基準が高まる
しなやかな社会性が身に付く

(『生きる力』を育てる異年齢集団活動の展開)(成田國英著、明治図書)参照)

4) 子どもと失敗体験

子ども達は様々な実体験を通じての成功体験や失敗体験の中で成長します。成功体験を通じて充実感と自信を得ます。

失敗体験も子どもの成長に欠かせません。失敗を乗り越え成功体験に変える事で生きる力を生み出します。

子ども会は、異年齢での仲間とともに成功体験と失敗を乗り越える体験を通じて成長する場です。仲間と協力し合い、そうした体験をすることで、個々の子どもにとってより強い自信となり、確信を持った価値観を作り上げる場となります。

育成者は子ども達が失敗を乗り越えられるように見守り支援する事を求められます。

子どもの成長にとって「失敗経験」と「成功経験」がバランス良くある事が重要です。

「失敗経験」が多い…劣等感を生む。「失敗経験」が少ない…自立心が育たない
「成功経験過多」…小児万能主義に陥る。

5. 子どもの成長と地域社会

1) 地域社会の特徴と子どもの成長

地域には赤ちゃんから高齢者までの年齢の人が住んでいます。障害を持った人もいます。また様々な知識や能力を持った人も多く住んでいます。

子ども会は、そうした人たちとの触れ合いや、互助を通して共生社会を築きます。

子ども達は地域での活動を通して様々な人間関係を体験し、自主的に活動する事によって社会性を身につけ、しなやかに生きる力を身につけます。

地域での多様な人間関係、価値観の中で子どもは成長できます。新たな人間関係、生活や活動の場が生まれます。

地域社会の中では家庭のような甘えは通じません。地域の大人との緊張関係があります。その緊張によって、子どもたちは社会における自己表現力をつけていきます。

地域の大人達は、地域社会の一員として子どもを受け入れていく事によって、子どもたちには社会の一員としての自覚が生まれ、さらに子どもの居場所を広げる事になります。

親にとっても、地域の一員として成長する場、子どもの成長を見守る場となります。

2) 地域社会と子ども・子ども会の役割

子どもの状況、環境についてはいろいろ言われています。そうした中で 地域での異年齢集団による子どもの活動は、子どもの成長にとって重要さを増しています。

子ども会を制度でとらえるのではなく、子どもの成長の関わる仲間という視点で捉えることが事が大切です。

子ども会を通じて価値観を広げる。社会の一員として成長する。そうした場であるのが子ども会の活動です。

とかく役員だけの活動になりがちですが、本来の精神は、地域全体、3世代が協力して青少年の健全育成をはかる活動です。

子どもたちは、家庭の愛情、学校の熱意、地域の善意が有ってこそ健全に育ちます。

子ども会は家庭、学校、地域を結ぶ役割を果たしています。

子ども会は、地域全体・三世代が参加する活動。地域の教育力そのものです。

多様な活動を自主的に展開する中で「豊かな感性、心」の成長を地域で育む活動です。

1. 地域の子どもの居場所となる。
2. 地域の子どもの成長の場となる。
3. 地域と子ども達を結ぶ場となる
4. 地域の大人達の交流の場・情報交換の場となる
5. 地域団体や行政への窓口となる。

これらが子ども会の大切な役割です。

3) 地域社会と子どもを結ぶ活動の事例

三世代交流

「五平餅を作って、昔の遊びを楽しもう」(三好市三好ヶ丘子ども会)

「座禅で心を見つめよう」(大府市・東海市) 老人会と一緒に

花壇作り・清掃活動

地域での祭りなどのイベント参加

高齢者世帯への訪問

「ぼくたち町の探検隊」(北名古屋市)

…地区の一人暮らしのお年寄りを訪問してプレゼントを渡す
防犯・防災訓練 (豊山町子ども会)

5. 遊びと子ども会活動

遊びで子ども会を活性化しよう

遊びは子ども会の大切な日常活動の一つです

遊びを通じて、子ども本来の姿を取り戻すことが子ども会の役割の一つです。

子ども会は異年齢の仲間と遊びを通じて成長をする事を会の目的の一つとしています。子どもたちが群れ遊ぶことを見守り支援する事は最も基本的な日常活動のひとつです。

1) 遊びの効果

「仲間と遊びたい」という気持ちは、特別な理由があるのではなく、心の中から自然にわき上がるものです。子どもにとって遊びは、創造的活動そのものです。

子どもは遊びでの失敗や成功を通じて成長します。仲間と思いっきり遊び満足することによって精神的な安定や、やる気、積極性を身につけると言われています。

集団での遊びへの参加を通じて、自己と他人との調和をはかる能力を養います。

また、折り紙や工作など創作活動によって、作る喜びを感じ、科学的な探究心を養います。

2) 子どもたちは現実世界での成功・失敗を通じて成長する

現代の子どもたちは、ネットワークの世界や、コンピューター遊びなどを通じての仮想空間と、身の回りの現実である現実空間の両方に生きています。

このような中、体と五感を使った直接体験が十分でないまま成長した場合、仮想空間での世界観と現実空間での社会生活のあり方や物事の法則との区別がつかないままに成長してしまう危険性もあります。

子どもたちが、生きていくための価値観や道徳観を身につけ、物事に対する正しい認識能力を育てるためには、様々な直接体験を通しての成功体験、失敗体験が欠かせません。子どもたちにとって、遊びは大切な現実体験です。



3) 遊びは人間関係能力を高めます

子どもは遊びを通じて

- ・人と人とを結びつける力
- ・ほかの人に働きかける力
- ・協調性・ルールを守る態度
- ・思いやりの心・支え合う心を身につけます。

(資料)「子どもと遊び」(全国子ども会連合会発行)では次のように書かれています

- 遊びは、人格形成や価値観を育てる。
- 遊びは、健康な子どもを育てる。
- 遊びは、生きた認識を育てる。
- 遊びは、創造性を育てる。
- 遊びは、自信・意欲を育てる。
- 遊びは、社会性を育てる。



4) 遊びの条件

=遊びに求められる要素=

子どもたちが遊びを通じて成長するためには

「3つの間」

- 自分たちで作る
- チャレンジできる
- 夢中になれる
- 達成感が得られる

などが必要です。

=子ども会は3つの間の確保=

遊びには次の「3つの間」が必要です。(「子どもとあそび」仙田 満著 岩波書店より)

すなわち

「仲間」「空間」「時間」(+「道具」「遊ぶ自由」)

が必要です。

地域の人たちに、遊びの大切さを理解してもらい「3つの間」の確保に協力を呼びかけましょう。

育成者は、自由な遊び集団が作られるように見守ることが大切です。

5) 異年齢集団での遊びや創作活動の事例

身体的能力を高める活動

スポーツ、体を使った遊び

自然体験

キャンプ、山登り

遊び文化の伝承

お手玉、ゴム跳びなど

創作活動

ペットボトル工作、折り紙

創作活動……作る喜びを感じる

文化的活動

年中行事

たこあげ、ひな祭り、



6) 遊びを通じて親子の対話・三世代の参加を

遊びは地域の力を高めます

現在、親子でたこを作って一緒にあげたというような生活体験が減っています。

紙飛行機を一緒にとばすといった活動も、今の時代は立派な子ども会活動です。

図書館や児童館に行くと、ペーパークラフトやペットボトル工作などを紹介した書籍や冊子がたくさんあります。「こんな事ならできる」そんな内容ばかりです。その気になれば、簡単にできます。それらを参考にすれば、子どもたちと一緒に取り組む事ができます。

昔遊び、伝承遊び、工芸なども見直す必要があります。

(例) 紙飛行機作り、たこ作り、折り紙、ペットボトル工作など

＝故郷には、豊かな自然と伝統文化がある＝

日本には豊かな文化があります。それを学ぶのも楽しいものです。

こうした活動でおじいちゃん、おばあちゃんも巻き込んで下さい。

親子3世代が一種に遊んだり何かを作る生産活動をする場を提供することは、現在の子ども会活動にとって時代の要請にあった大切な視点でしょう。



＝遊びは誰でも参加できます。＝

遊びは、子どもたちも大人も気楽に参加できます。しかも楽しんで参加できます。こうした活動は、誰でも参加でき、子ども会活動への参加を呼びかけやすい活動です。多くの方に「遊び」への参加を呼びかけましょう。

＝遊びのリーダーを育てよう＝

本来は自然発生的に遊びのリーダーが出てくるのが望ましいのですが、昔遊び、創作活動、自然遊び、屋外で思いっきり体を使う遊びの経験が少ない現在、そうした物を子どもたちに紹介し、教えるリーダーも必要になっています。

小学校高学年、ジュニアリーダー、地域の青年、大人達の中で遊びを紹介できる人たちが必要になっています。

注意すべき事は、リーダー達が先頭に立ちすぎないようにすることです。あくまで子どもたちが自主的に遊ぶ事を見守るようにし、無理強いしたり、指導に夢中になってしまわないことです。

ジュニアリーダーが集団の前に立ってゲームをするような活動ではなく、異年齢の子どもたちが、自然に協力し合い、楽しみながら活動できる状態を作り出すリーダーが望まれます。

＝昔遊び・伝承遊びは幅広い年齢の子が参加できます。＝

昔遊びは、幅広い年齢層が参加できるようにルールができています。

異年齢での交流を促進する伝承遊びをシルバー世代から教わったり、竹とんぼ、竹馬作り、たこ作り、たこ揚げなどを幅広い世代とともに楽しむことによって、子ども会も、地域も活性化します。

昔遊びの例

かんけり、馬とび、花いちもんめ、ビー玉、おはじきゴム跳び、お手玉、ケンケンバ、かごめかごめ



＝ニュースポーツは3世代が一緒に参加でき、交流できます＝

最近「ニュースポーツ」と呼ばれるものが数多くあります。それらの中には、低学年の児童からシルバー世代まで一緒に楽しめるものもあります。

ルールもそれぞれの世代に合わせて変更するなどの工夫で、楽しんで交流ができます。体育館で行うものも多く、天候に左右されないことも魅力です。

ニュースポーツの道具は教育委員会の社会体育関係の部署に申し込めば貸してくれます。そのときに指導員の派遣をあらかじめ依頼すれば、派遣してくれます。

子どもたちのレクリエーション活動、三世代の交流が目的なので勝負にこだわりすぎな

いように注意しましょう。

3 世代交流に適したニュースポーツ遊びの例

スポーツ輪投げ、グランドゴルフ、カラーリング、ベタンク、イゴボール、キャッチングザスティック、などの他多くのスポーツがあります。

(参考にした文献)

「子どもと遊び」(全国子ども会連合会発行)、「子どもとあそび」(仙田満著、岩波新書)、「子どもの育ちと遊び」(朱鷺書房)他参照

6. 自然と子どもの成長

1) 子どもにとって自然とは

子どもにとって自然体験は

1. 好奇心を高め想像力を養う場
2. 発見の喜びを楽しむ場
3. 創造力を高める場
4. 自らの価値観を育て確かめる場

となります。



2) 自然体験の効果

自然体験は子どもたちの成長に大きく影響します。自然体験の効果として

- ・自然体験が豊富な子どもほど道徳観、正義感、良い生活習慣が身についている。(青少年白書)
- ・自然遊びを通じて生きる力を養う。
- ・協力し合う事を知る。
- ・生きた認識を育てる。
- ・感性を育てる。
- ・情緒を安定させ情操を豊かにする。
- ・科学心が磨かれる。
- ・生きている喜びを感じる。
- ・安息を得る。人間関係だけでは子どもたちは息苦しくなる。

などが言われています。

3) 子ども会活動の中に自然体験活動を

=自然体験の例=

キャンプ、山登り、川遊び、星見会、バードウォッチング、河原の石観察、植物観察、落ち葉拾い、あぜ道の観察、木登りなど上げ始めたらきりなくあります。

子どもたちの意見を聞きながら、積極的に取り組んだらどうでしょうか。

(事例)「チャレンジサーフィン」(江南市前飛保子ども会)…初めてのサーフィンを楽しみその後海岸の清掃活動をする。

「森のキッコロ探検隊」(美浜町北方子ども会)…山からたけを切り出し、竹細工をする。竹とんぼ、竹鉄砲、竹馬

「野鳥がいっぱいいる椋原大池にしよう」(常滑市)EM団子を作り池に入れる。ゴミ拾いをする。

=身近な自然を生かす=

どこか遠くの特別な場所に出かけなくても、近くに自然とふれあう場所があるはずで

す。近くの公園の中にもきっと自然体験ができる場所は有るでしょう。そうした物を生かせば、大きな負担にならず、継続的に取り組むことができます。

＝イベントとしての自然体験＝

普段接することのない場所に出かけることも、子どもたちにとって魅力的です。愛知県にはいくつかの自然公園もあります。そうした場所は安全も考慮し整備されています。キャンプや、ウォーキングをするには良い場所といえます。

＝一つの自然体験活動を長期的に＝

学校での学習活動とは違って、子ども会での取り組みは長期的に、様々な年齢層の参加で取り組むことができます。

(事例)名古屋市昭和区の子ども会では、長年にわたって専門家と協力して、市の防災公園に森作りを長年にわたり行っています。

そうした活動の中で、森の成長とともに子どもたちも成長する様子が報告されています。

鎌を持つことも知らず、水に入ることも嫌いな子どもたちが、地域の人たちとともに森作り、ピオトープ作りをする中で生きることと自然との関係を学び、何年も参加し青年になっていく姿も報告されています。この活動によって地域自体も発展しています。

＝自然遊びの伝承を子ども会の場で実現する。＝

笹舟作りやたこ揚げ、レンゲソウや彼岸花で作る首飾り、水切り（石投げ）など昔から伝わる自然遊びがあります。シルバー世代と協力して、そうした物を子どもと一緒にするのも楽しい活動です。

＝自然体験活動では安全確保と班活動をに＝

楽しいはずの自然体験も一方で事故の危険性も持っています。安全管理、安全教育をしっかりとした上で進めることが大切です。

安全管理の上でも、子どもたちの成長のためにも、適当な人数での班活動をする事が有効です。グループで助け合いながら自然体験することによって子どもたちの成長の場となります。

＝自然体験活動のリーダーを育てよう＝

植物、動物、天文、地形地理など自然について知識や、自然と触れ合う活動の技術を持って指導できるリーダーが求められますが、残念ながら一部を除いて、子ども会の中にはまだ育てはけません。

自然体験活動が指導できるリーダーが存在すれば、子ども会活動はより多様で豊かな内容になります。

県の施設などで、自然体験の為の様々な取り組みがされているので、そうしたものに参加して、リーダーを計画的に育てる必要があります。

名古屋市昭和区の森を育てる活動では、何人かのシニアリーダーが育っています。

次の自然体験について「ほとんどしたことがない」(資料)

(平成 10, 17, 21 青少年の自然体験活動等に関する実態調査。青少年白書, 国立青少年教育振興機構統計より) 単位%

| 自然体験の内容 | 10年 | 17年 | 21年 | 24年 |
|-------------------------|------|------|------|------|
| ロープウェイやリフトを使わずに高い山を登った | 53.1 | 68.7 | 67 | 55.3 |
| 大きな木に登った事 | 43.3 | 53.6 | 52 | 36.9 |
| キャンプをした事 | 38.2 | 52.8 | 57 | 41.2 |
| 太陽が昇るところや沈むところを見た事 | 33.6 | 43.1 | 38 | 32.5 |
| 海や川で貝をとったり魚を釣ったりした事 | 21.6 | 40.3 | 42 | 32.5 |
| 夜空いっぱい輝く星をゆっくり見た事 | 22.2 | 35.1 | 33 | 18.1 |
| 海や川で泳いだ事 | 9.8 | 26.0 | 30 | 14.7 |
| チョウやトンボ、バッタなどの昆虫を捕まえたこと | 19 | 34.3 | 40.8 | 20.5 |

(参考にした文献)

「青少年白書」「子ども若者白書」「国立青少年教育振興機構統計」「子どもと自然」(河合雅雄著)「子どもと環境」(中垣洋一著, 圭文社) 他

子ども会とは

子ども会のメリット

- ①子どもが成長する！
- ②地域がよりよくなる！
- ③保護者にとっても成長・交流の場になる！

子ども会とは

①子どもが成長する！

- ・ 様々な体験を通して成長する。
- ・ 「子どもの手による子ども会」で魅力的な活動を！

子ども会には「子どもの手による子ども会」というキーワードがあります。大人がすべて活動を計画し実行するのではなく、子どもの力で子ども会を運営していくことで、魅力的な子ども会活動にしていきたいと思いますという意味です。子ども会は、子どもが主体で運営していくのが本来の姿です。

子ども会とは

①子どもが成長する！

- ・ 様々な体験を通して成長する。
- ・ 「子どもの手による子ども会」で魅力的な活動を！

子どもに会場準備を手伝ってもらったり、飾りつけやゲームのアイデアを考えてもらったりするだけでも、子どもの活動体験を色濃くすることができますので、ぜひ実践していただけると幸いです。

子ども会とは

②地域がよりよくなる！

- ・地域内で子どもと大人の距離が近くなる。
- ・防犯につながる。

子ども会の活動をしていれば、子どもが危ない目に遭いそう
なときに助けてあげられる。知らない人ではないから、子ども
も信用してくれる。

(愛知県豊川市子連_単位子ども会アンケートより)

子ども会とは

②地域がよりよくなる！

- ・地域内で子どもと大人の距離が近くなる。
- ・防犯につながる。

2つ目のメリットは「地域がよりよくなる」ことです。
子ども会活動を地域で行うことにより、地域の大人が子どもを目にする機会が増え、大人と子どもの距離が近くなります。
地域全体で子どもへの関心が生まれ、子どもの安全を守るはたらきにつながります。

子ども会とは

②地域がよりよくなる！

子ども会の活動をしていれば、子どもが危ない目に遭いそうなときに助けてあげられる。知らない人ではないから、子どもも信用してくれる。

(愛知県豊川市子連_単位子ども会アンケートより)

また子ども会内でも、育成者と子どもたちが顔見知りになることで、コミュニケーションがぐっと取りやすくなります。

令和4年7月に愛知県・豊川市子連が単位子ども会役員に実施したアンケートでは、このように書いていただいた方がいました。

子ども会とは

③保護者にとっても、成長・交流の場になる！

- ・子ども会の運営を通して成長する。
- ・子育て、学校、生活の情報交換の場になる。

3つ目のメリットは、「保護者にとっても、成長・交流の場になる」ことです。

子ども会は保護者にとっても、普段とは違う体験ができる特別な場所です。

また複数の保護者が集まることで、自然と情報交換・交流が生まれます。

子ども会とは

子ども会の組織



松阪市子ども会連合会（松子連）

三重県子ども会連絡協議会

全国子ども会連合会

子ども会とは

- ・ 子ども会は、異年齢の子どもが集まり、遊びを中心とした様々な活動を行う。
- ・ 子ども会には、子どもの成長だけではないメリットがある。
- ・ 市子連にも加入のメリットがある。

子ども会には様々なメリットがあり、市子連は子ども会運営のためのサポートを行います。

子ども会活動をするうえで困ったこと、相談したいことがありましたら、市子連までお問い合わせください。

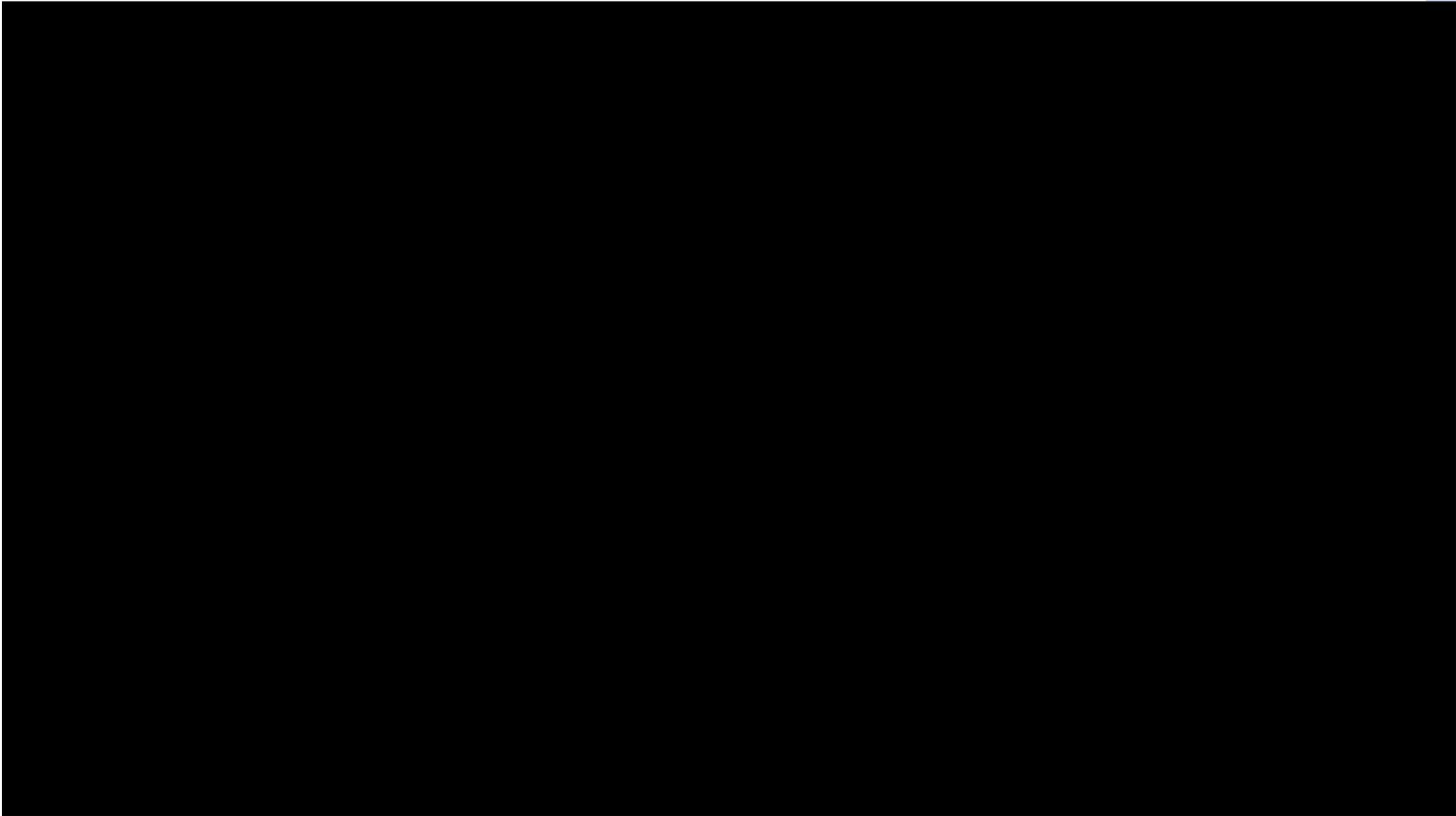
目次

■子ども会とは

- ・子ども会の定義
- ・子ども会の特徴
- ・子ども会のメリット
- ・子ども会の組織

■KYT（危険予知トレーニング）

- ・KYTを行う理由
- ・安全共済会について
- ・子ども会活動と事故
- ・安全な活動のために
- ・KYTの進め方



KYT（危険予知トレーニング）

KYTを行う理由

- ①子ども会には事故の可能性がある。
- ②子どもに危険回避能力を身に付けてほしい。
- ③育成者を守るために実施してほしい。

今回、松子連としてKYT研修を実施するのは、各地域、各単位子ども会でぜひKYTを実施してほしいからです。

なぜKYT実施をすすめるのか、理由は上記の通りです。

KYT（危険予知トレーニング）

①子ども会には事故の可能性がある

- ・活動を行う以上は事故の可能性がある。
- ・大人にも子どもにも、事故の危険があることを理解してもらう必要がある。

遊びがベースにあって「楽しい！」イメージの子ども会でも、時にはケガをしたり、重大な事故が発生することがあります。

そういった危険は必ず存在しているんだということを、大人にも子どもにも理解して考えてもらうためにKYTを実施します。

KYT（危険予知トレーニング）

②子どもに危険回避能力を身に付けてほしい

子ども会活動には危険があるからと、危ないからやらないのでは、子どもの経験の機会が失われ成長につながりません。

機会を与えないのではなく、危険がある状況でどうしたら安全に活動できるのかを子ども自身で考え、危険回避能力を身に付けてほしいという狙いがあります。

KYT（危険予知トレーニング）

③育成者を守るために実施してほしい

万が一事故が起こったとき、子ども会を運営している大人の育成者が責任を問われる可能性があります。

ボランティアでも責任問題があります。

そのとき、安全対策を講じていたかどうか重要になるため、KYTの実施を推奨します。

KYT（危険予知トレーニング）

安全共済会について

- ・保障されるのは「年間行事計画」に記載された事業のみ
- ・「事故第一報報告書」にはKYT実施の有無を書く欄がある

万が一子どももしくは育成者がケガをして、安全共済会に医療共済金を申請する場合、注意事項がいくつかあります。

まず第一に、安全共済会で保障される事業は、事前に市子連に提出いただいた「年間行事計画」に記載されているもののみです。活動を行う際、計画段階で必ず年間行事計画を提出してください。

KYT（危険予知トレーニング）

安全共済会について

- ・保障されるのは「年間行事計画」に記載された事業のみ
- ・「事故第一報報告書」にはKYT実施の有無を書く欄がある

次に、「事故第一報報告書」という、事故が起こったときすぐに提出する書類があります。こちらにはKYTを実施していたかどうか書く欄がありますので、ご承知おきください。

KYT（危険予知トレーニング）

子ども会活動と事故

令和4年度に三重県内で起こった事故件数…9件

- ・ソフトボールの練習中、素振りが他の子の顔に当たって切創（縫合）
- ・ドッジボールの練習中に体制を大きく変えたため、腰を捻って腰痛症（指導者） など

スポーツの練習中や、その往復にもケガが発生しています。行き帰りのケガについては、交通事故には特にお気を付けください。

KYT（危険予知トレーニング）

安全な活動のために

- できる限りKYTを実施する
- 計画を必ず立てる
- 記録(紙、写真、スクリーンショット等)を残す
- 反省会を行う
- 役員内で常に情報共有する

なるべくKYTを実施し、活動前に必ず計画を立てましょう。
記録(特に開催日のお知らせなど)は、安全共済会の保険申請
で使うこともありますので、保存しておいてください。

KYT（危険予知トレーニング）

安全な活動のために

- ・できる限りKYTを実施する
- ・計画を必ず立てる
- ・記録(紙、写真、スクリーンショット等)を残す
- ・反省会を行う
- ・役員内で常に情報共有する

活動の後、役員内で反省会ができると、それぞれの気づきを報告しあえて次の活動がより安全になります。

最後に、大前提として、計画から配慮事項まで役員内で常に情報共有を行い、複数の視点で運営できるようにしましょう。

KYT（危険予知トレーニング）

KYTの進め方

